

親愛的♡台湾

三井 さや花

「めんくまう」

台湾のホテルの洗面所で、私は何回かこのひらがなに出会いました。あるものに書かれた言葉、みなさんは何のことかわかりますか？

答えを言っても、一体なぜこんなことになったのか、わからないかもしれません。正解は「綿棒」です。「めん」まではいい。なぜ「ぼう」が「くまう」になったのでしょうか。何年か前、女子高生の言葉について調べたことのある私は、すぐにピンとききました。彼女たちはメールの文章などで、例えば「た」の左側と右側を分解してカタカナで「ナニ」と表記していました。これと一緒に、ひらがなを図や記号としてしか解さない台湾人は、「ほ」の左側の棒を「く」、右側の部分を「ま」と判断し、さらに「ぼ」の濁音部分は気にしない、という判断をしたのだと思います。とある一流ホテルの洗面台で、私は思わず声をあげて笑ってしまいました。ひらがなをもはや図形として見ることのできない私には、愉快的出来事でした。それと同時に「英語だけでなく、日本語も調べて表記してくれてありがとう。でもネイティブチェックしようよ、日本人いっぱいいるんだから、誰かすぐ見てくれるのに・・・」と複雑な気持ちになったのでした。

台湾の台北に住んで2年半。台湾では（半ば無理やりに）いろいろなところで日本語（ひらがな）表記が見られます。親日ということもあるのですが、日本語が書いてあると、その製品や食品の品質が良いように見え、お店の看板などでもかっこよく見えるそうです。ひらがなの「の」は台湾人ならだいたい読めるとのこと。次ページの写真のような感じで、いろいろなところで使われています。日本でフランス語（ラテン系言語）の **de** がちょっとおしゃれに（時におちゃめに）助詞の「で」と掛けて使われているような感じでしょうか。

台北などの大都市では、日本の飲食店もたくさんあります。大戸屋、吉野家、さぼてん、はま寿司、丸亀製麺、モスバーガーなど、日本食には困りません。デパートも三越や高島屋だけでなく、日本では少なくなってしまった「そごう（SOGO）」も人気があります。スーパーにも日本の食品がたくさん並んでいます。台湾の方には、日本が大好きだとそこら中で言ってもらい、日本語で話しかけてもらいます。私には4歳と2歳の子どもがいますが、子どもたちもかわいがってもらっています。海外での不自由な生活は台北ではあまり味わえません。

多くの台湾人に日本が好きだと言ってもらいますが、私には、台湾のほうが素敵だと感じる事が多くあります。優しさと勤勉さを備えつつ、そこから少し堅苦しさを抜いたイメージです。ナイスバランス！なのです。

妊娠中や子連れで電車やバスに乗れば、ものすごいスピードで席を譲られます。時には強引に手を引いて席に連れてかれるほど。大学生くらいの若い人もすぐに席を譲ってくれます。相手の出方を伺うより先に、自分がよしとする行動をすぐにとれる台湾人は素敵だと思います。

また、中秋節のパーティーにお邪魔したとき、台湾人の友人が屋上でバーベキューをセッティングしてくれました（台湾ではなぜか中秋節にバーベキューをする習慣があります）。友人の家には30人くらいの方が集まり、マンションの部屋と屋上を行き来して、パーティーをしていました。その時点でも、結構騒がしかったと思います。すると突然、屋上でカラオケが始まりました。夜の9時ころです。友人はカラオケの機械まで借りてきていたのです。大声でいろいろな人の熱唱が始まり、日本人のメンバーは夜に大きな音で近所迷惑ではないか、とはらはらしていました。ところが、なんと同じマンションの方もカラオケに参加し始めたのです。1日だけのこと、そんなことでは咎めない、むしろ楽しそうなら加わってしまえ、という考えには脱帽しました。

他には、回送のバスに乗ってしまった子連れのお友達が、結局目的地まで乗せてもらった、というエピソードもあります。規則が、周りの迷惑が、と考えすぎると日本では、考えられないことです。

もちろん、日本とは文化も習慣も違うので、台湾で戸惑ったり、びっくりしたり、時に怒ったりすることもあります。でも、基本的に人にやさしくて、おおらかな台湾が私は本当に大好きです。我が家の台湾生活も残り少なくなって参りました。残りの生活を楽しみつつ、台湾にどうやって恩返しができるか、考えている今日この頃です。

